

学校関係者評価報告書

今治東中等教育学校

学校番号 (45)

評価実施日	令和7年3月5日(水)	
委員	学校評議員	4名
	学校関係者評価委員	2名

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 進路指導について 年内で進学先が決定していく生徒数が増加している。国公立合格者の数値は、目標値に届いていないが、担任をはじめとして学校全体で、探究活動の成果を取り入れるなど生徒の個性を生かした指導ができていると感じられる。</p>	<p>○中等教育の長期的な展望に立ったきめ細やかな進路指導、また生徒・保護者との対話を重視し、生徒の個性を生かし、長所を伸ばす教育の推進に努めたい。特に、探究活動の成果を活用した進路開拓も進めていきたいと考える。</p>
<p>2 地域との連携について 新聞などでの地域を舞台とした探究活動の成果報道や地域の方々から、今東の活躍をよく聞くようになった。しっかりと地域に根付いた活動をしていると感じられる。今後も積極的に地域に入ってってもらいたい。それが地域の元気につながってくる。</p>	<p>○来年度も今治城のお堀を活用した水力発電や、今治ドローン協会の支援を受け、「今東ドローン防災隊」を結成するなどの地域を教材とした探究活動を実施する予定である。目的意識を持って、地域の課題解決方法を仲間や地域と協働して取り組むといった実践的な教育の推進に努めたい。</p>
<p>3 コミュニケーション能力育成について 授業を参観させてもらおうと、ICTや1人1台端末を利用した活発なコミュニケーションが見られたが、英検の取得率に結び付いていないのは少し残念である。愛媛大学と連携した国際理解セミナーなど興味深い取組もあるので、それらを生かして欲しい。英語を介したコミュニケーションの重要度が高まっている。生徒たちが興味関心を高められる体験を多く、これからもどんどん設定してはどうか。</p>	<p>○今年度の特色は、1年生に英語への取組が高い生徒が多いことである。「国際理解セミナー」にも1年からの参加生徒も例年より多かった。参加者の大部分は、英検取得を目指すようになり、2級合格者も出ている。進学的面においても、英語は非常に強い武器となるため英語科を中心に体験活動をより重視し、グローバルマインドの醸成に努めたい。</p>
<p>4 中等教育学校の特色を生かした教育について 学校評価アンケートにおいて、「中等教育学校の特色を生かした教育ができているか」という項目で教職員の評価が生徒、保護者と比較して一番低くなっている。教職員自身が、中等教育の特色を感じられていないのは非常に残念である。 また入学予定者保護者アンケートにおいて、「高校受験の対策について教えてもらいたい」という意見があった。入学する前から、後期課程への進級を考えていない保護者がいることが残念である。やはり、教職員が中等教育学校の良さや特色をしっかりと認識して学校運営をしてもらいたい。</p>	<p>○教職員がなぜ、「特色を生かした教育ができていない」と考えているのかをしっかりと把握していきたい。 学校行事や探究活動、特に3年・4年の探究活動においては、十分中等教育の特色を生かした取組に、なっていると思う。令和9年度の5年生から開設されるスポーツコースのカリキュラムや授業内容なども含め、6年間を見据えた教育活動をししっかりと考えていきたい。そのためにも、学校評議員の皆様や地域、また行政としっかりと連携していきよりよい学校運営ができるように努めていきたい。</p>
<p>5 広報活動について 小中学校への出前説明会の回数も増えていることは大変良いことである。また説明会で、その小中出身者によるプレゼンを行うのは非常に効果的だと考える。小中学生また、小中の先生方は、成長した卒業生の姿を見ることで、より東校に対する親近感を持つと思う。 今治市や西条市の生徒数は減少していく一方で生徒数の確保は困難になっていくとは思いますが、東校の魅力をどんどん発信して欲しい。</p>	<p>○今年度、県立高校で特色入試が始まった事や高校無償化が促進していく中で、従来通りの広報活動では限界があると考え。広報活動の中で、今後重視したいと考えているのは、小中との緊密な関係を築いていくことだと考える。小中学生や保護者にとって、担任など学校の先生からの助言は進路面における強い後押しになる。今後できる限り、小中を訪問したり、小中学校との交流を増やすことで効果的な広報活動につなげていきたい。</p>